2022年度 家庭総合 (3年生文系クラス)シラバス

概要	科目名	家庭総合	学年	3	履修単位	2
	目標	家庭総合の授業では、自分らしい生き方、保育、高齢化社会、住生活、消費者生活を学習します。家庭を取り巻く環境の変化に対応し、現在の生活や将来の生活を見つめ、各自の生活目標を持つこと。実践的・体験的な学習を通して生活に必要な知識や技術を習得し、各自の生活を工夫・応用していくことができるようになることを目標としています。 今年度では、保育、高齢者、消費者生活、住生活などを中心に学習していきます。				

学期	授業計画						
	項目	指導事項	時間	指導上の工夫・留意点			
1 学期	家庭総合を学ぶにあたって		2	家族や生活の営みを人の一生とのかかわりの中でとらえ、生活の場で生きて働く力となるよう総合的に習得させる科目であることを理解させる。			
	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動		2	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の意義を理解させ、問題解決への主体的実践的な学習活動であることを理解させる。			
	2章次世代をはぐむ 子どもの発達	次世代をはぐむ 命のはじまり		4	・次世代の子どもたちをすこやかに育てることの責任を自覚する ・妊娠から子どもの誕生までの母体の健康管理、胎児の発育と母体の変化を学ぶ。 ◎妊婦体験		
		子どもの体の発育・発達		2	・乳幼児期は一生を通しての人間の発達の基礎をつくる最も重要な時期であることを理解する。		
		子どもの心の発達		2	・心の発達とともにさまざまな欲求があらわれること、子どもが欲求不満におちいった場合には親の適切な対応が重要であることに気づく。		
		子どもと遊び		4	・遊びは子どもの生活の大部分をしめており、遊びをとおして子どもの心身の発達や健康の保持・増進がなされていることを理解する。		
		子どもとのふれ合い		4	・保育所や幼稚園を訪れて乳幼児と直接にふれ合い、乳幼児期における子どもの心身の発達についての実情を知り、理解を深める。		
	親の役割	親と子の関係		2	・乳幼児期は、人間形成の基礎となる重要な時期であり、特に親とのかかわりによる「愛着」の形成は、その後の信頼関係づくりのうえで重要であることを理解する。		
		乳幼児児の生活		2	・乳幼児の食生活・衣生活・住生活について理解を深める。		
	子育て支援と福祉	子育て支援と地域社会のかかわり		2	・家庭保育との比較のなかで、集団保育の意義や、現代社会における保育のあり方、特徴を理解する。		
子どもの権利と福祉			2	・子どもの権利条約にもとづいて、子どもの権利や福祉についての理解をはかる。			
2 学期	3章充実した生涯へ 高齢期を生きる	高齢期をどう生きるか		2	・高齢社会を迎え、私たちにとって高齢者の存在がかかわりの深いものになってきたこと、豊かな生活経験をもつ高齢者から学ぶことが多いことなどについて理解する。		
		高齢期の生きがいと就労・社会参加		2	・高齢者の社会参加の一例として、地域活動や生きがい事業について考える。		
		高齢者を知る		4	・高齢者体験などをとおして高齢者の身体状況への理解を深め、「相手の立場や気持ちを思いやることは、自分を大切にすること」であるということについて理解する。 ◎高齢者疑似体験		
	高齢社会を支え合う	高齢社会の現状と課題		2	・日本の高齢化の現状について理解するとともに、将来の高齢社会のあり方を考えていく。		
		高齢者やその家族の支援システム		2	・介護保険制度のねらいや運用方法について理解し、今後の課題についても考える。		
		高齢者の尊厳を支える		2	・高齢者の自立を支援するうえでコミュニケーションの大切さを認識し、その基本的な方法について理解する。		
	4章ともに生きる	社会保障制度と福祉		2	・社会保障制度の必要性とそのしくみについて認識し、それぞれの範囲について理解する。		
		ともに生きる社会をめざして		2	・ノーマライゼーションの実現のためには、私たち自身がどう考え、取り組んでいけばよいかという実践的な態度を身につける。		
	8章住まう 人の一生と住まい	気候・風土と住まい		2	・日本や世界の各地に見られる特徴的な住まいを比較し、住まいは条件の異なる地域の気候や風土に応じて作られたことを理解する。		
		人と住まい		2	・人にとってなぜ住まいが必要なのか、住まいの発生にさかのぼって考える。昔の住宅から現代の住宅までの日本における住まいの変化を理解し、それぞれの時代の家族のあり方や住まい方を考える。		
平面図活用			2	・自分の日常生活を振り返り、その生活行為と生活時間のつながりや住まいの機能について理解する。			
ライフステージと住まい			2	・住まいは、人が何十年も暮らすものであり、だれでもどんな状況でも快適に過ごせるような、住まいの必要条件を考える。			
住まいのインテリア			2	・インテリアを構成する要素について理解し、自分のイメージにあったインテリアデザインをもとに家具の配置を考える。			
住生活の計画と選択		快適で健康な住まい		2	・住環境が健康な生活に大きな影響を与えることを理解し、衛生的な室内環境を整備するためには、どのような工夫が必要か考える。		
		住まいの安心・安全		2	・地震などの自然災害や火災などの人的災害への対策について考える。		
	住まいの維持管理		2	・住まいの耐久年数を維持するためのメンテナンスについて理解を深める。			
これからの住生活	日本の住宅事情と住宅政策		2	・居住水準について理解し、現代の住宅や住環境の問題について関心をもち、			
	住環境とまちづくり		2	・身近な地域の住環境について分析し、「住みよい環境」のためには何が必要か考える。			
3 学期	消費者問題を考える	住環境に配慮した住生活		2	・自然環境や社会環境と住生活の関連について調べ、今後の住生活のありかたについて考える。		
		契約トラブルとその対策		2	・消費者被害の事例をとおして、消費者被害の状況を理解し、消費者被害が起こる原因を考える。 ・契約した後でも、考え直して解約できる方法があることを理解する。		
		クレジット利用のリスク		2	・販売方法、支払い方法が多様であることを知り、購入時に適切な判断が必要であることを理解する。		
		消費者の自立と行政の支援		2	・さまざまな消費者問題の発生のなかで、消費者の権利が制定されたが、消費者の責任についても提唱された。消費者の権利の保障とともに、消費者一人ひとりに責任があることも理解する。		
評価方法	①授業態度 ②定期考査 ③提出物 ④課題 以上を総合的に判断し、評価とする。						
評価 規準	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解			
	◎授業中のワークの記入や取り組み姿勢・態度から、家庭生活について関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組んでいる。 ◎実践的な態度を身につけている。	◎授業中のプリントの記入内容や態度、定期考査の結果から、家庭生活について課題を見つけ、適切に判断し、解決方法を考え取り組んでいる。	◎実習等を通して、基礎的・基本的な技術を身につけている。	◎定期考査の結果を参考にし、家庭生活の意義や役割を理解し、家庭生活の向上に必要な基礎的・基本的な知識を身につけられた。			